

佐野短期大学シラバス2014

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|---|--------------------------------------|------|---------------------------------|
| 身体表現 I Physical Education of Young Children I | | 1年 | 前期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 (保育士養成課程必修・教職課程必修(幼稚園教諭二種)) | | 履修上の制限 児童フィールド以外の学生は人数の制限がある |
| 1単位 | 演習 | 選択 | | |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 保育内容健康、子どもの保健Ⅰ・Ⅱ 発育発達論 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得に必要な科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 山内 健次 | 本館2階 | 木曜・金曜 9:00～16:00 (授業時間中は除く) | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| 幼児の体力低下が大きな社会問題となっている。多くの時間を幼稚園や保育園で過ごす園児にとって、園生活の中に「運動遊び」を取り入れることは、体力向上につながる大きな要因となる。幼児の運動能力向上のためには「楽しく」「安全に」「より効果的である」ことに着目しなければならない。また運動遊びの目的は体力向上に留まらない。社会性や協調性を身に付けさせることにも期待される。この講義では、まず受講者自身が身体活動の楽しさを知り、園児に対してこれらの要素を実践できる、技能の習得を図る。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①年少中長児ごとの運動発達を知り、その年齢に応じた適切な運動遊びの種目の理解や、運動レベルの設定ができるようになる。 ②自分を保育者または指導者の立場に置き換え、受講者が楽しいと思えるような授業を作り上げることができるようにする。 ③保育者や指導者は、園児に多種多様な運動遊び種目を提供するのみならず、自分自身が正確にしその見本を示せることができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 実技指導、学生同士による模擬指導(指導者と園児役になる)、保育現場での事例報告 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①園児の加齢に伴う運動の発育発達に応じた、運動遊び指導のプログラムを構成することができる。 ②園児が安全に運動遊びを行えるような、環境整備をすることができる。 ③園児にからだを動かすことの楽しさを伝えることができる。 ④運動会行事を計画し実施する能力を身につけることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス(受講にあたっての服装や態度と注意点、授業内容の確認、成績評価方法) | | | |
| 第2回目 | 幼児の集団遊びと伝承遊び①(年齢別の遊具・器具を利用しない遊び) | | | |
| 第3回目 | 幼児の集団遊びと伝承遊び②(じゃん拳遊び) | | | |
| 第4回目 | 幼児の集団あそびと伝承あそび③(鬼遊び) | | | |
| 第5回目 | マットを使った運動遊び指導①(年齢に応じたマット遊びの実際) | | | |
| 第6回目 | マットを使った運動遊び指導②(前転、後転の指導プロセスとその補助法) | | | |

| | | | |
|--|--|-----|---|
| 第7回目 | マットを使った運動遊び指導③(前転、後転、前転補助、後転補助、壁倒立の技能習得) | | |
| 第8回目 | 跳び箱を使った運動遊び指導④(年齢に応じた跳び箱遊びの実際) | | |
| 第9回目 | 跳び箱を使った運動遊び指導⑤(開脚跳びの指導プロセスと補助法) | | |
| 第10回目 | 幼児のコーディネーショントレーニング(幼児の調整力向上運動遊び) | | |
| 第11回目 | 平均台を使った遊びの実際 たけうま技能の習得 | | |
| 第12回目 | フープを使った遊びの実際 | | |
| 第13回目 | マット・跳び箱・たけうま遊びの復習と個人技能向上練習 | | |
| 第14回目 | マット・跳び箱・たけうま遊びの技術説明とテスト | | |
| 第15回目 | マット・跳び箱・たけうま遊びのアレンジの方法 | | |
| 成績評価の方法と基準 | | | |
| | 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| | 授業参加態度 | 60% | ・協調性をもって授業に臨む姿勢。 ・技能の習得に対して前向きな姿勢。 ・用具の準備・片付けなどに積極的に参加する。 |
| | レポート | | |
| | 調査報告書 | | |
| | 小テスト | | |
| | 試験 | 30% | 実技試験＝マット(前転・後転・前転補助・後転補助、壁倒立)、跳び箱(開脚跳び)、たけうま |
| | 発表内容(態度含む) | | |
| | その他 | 10% | スポーツを行うに適した、服装やシューズが用意されている。 |
| 教科書と参考図書 | | | |
| 教科書：使用しない 参考図書：「幼児体育教本」(同文書院)、「0～5歳児の運動あそび指導百科」(ひかりのくに)「キッズコーディネーション」(全国書籍出版)、「園児いきいき体育あそび200選」(かもがわ出版) | | | |
| 履修上の留意点・ルール | | | |
| ・指輪、ピアス等の装飾品は授業前にとること ・体育館への飲食物と携帯電話の持ち込みは禁止 ・協調性ある態度で臨むこと | | | |